

エコ・カレッジ通信は毎月(第3火曜日)定期開催される北海道 GPN エコ・カレッジカフェでの学生・企業の環境活動等の取組事例を紹介します。今回第5号はエコ・カレッジカフェ第5回目(3月17日、会場アースカフェ・インザループ、参加者約25人)の発表内容を掲載します。

Project I.T.L

「環境活動への取組」

伊藤 泰啓 君(北海道大学経済学部)

◆Project I.T.L とは

「学生」と「学生」、「学生」と「社会」を繋ぐということを活動コンセプトに、In the Loop を活動拠点とするイベント系学生団体です。

2007年の4月に発足して以来、『学生タイム』や『学生交流会』、『学生社会人交流会』など、In the Loop にて学生を主役とする企画を運営してきました。

現在は北大生を中心に、6つの大学と専門学校の学生20人程で活動しています。



◆主な活動

札幌市を中心とする多くの学生団体に、活動場所として In the Loop を無料開放しています。会議や、練習、飲み会など、毎日様々な団体が出入りしています。

また、『学生タイム』を利用している団体を中心に、月1度『学生交流会』を開催し、普段なかなか接点のない団体同士、活発な情報交換がされています。

◆学生環境団体との繋がり

<ecoeco Reuse>

卒業する学生から、家具や家電などを無料でいただき、新入生や在校生などに安価で提供するという活動をしています。

これは粗大ゴミの削減に繋がるだけでなく、安く家電などが手に入るため、新生活を向かえる学生にとって、大きな助けにもなっています。

Project I.T.L では、回収や運搬のお手伝いをしています。また、回収した家具は、引渡しまで In the Loop にて保管し、購入希望者が直接見に来ることもできます。



<WHB>

『エコキャップ活動』を推進している団体です。

『エコキャップ活動』とは、回収したペットボトルキャップを指定業者に引き取っていただき換金します。そのお金をポリオワクチンにして、全世界の子供達に届けるという活動です。

Project I.T.L では、キャップの回収や計量のお手伝いをしています。また、回収したキャップは In the Loop にて保管、札幌市では数少ない回収場所となっています。



◆エココン2008に参加

エココンとは環境に関する活動をする学生が、全国各地から集まり、それぞれの活動を発表します。またその発表を、様々な分野で活躍中の社会人や学生、見学者による公開選考を通じて、学生の環境活動を様々な観点から評価、表彰するコンテストです。

そこで、参加者同士の交流から新たな活動が生まれたり、環境活動の活性化に繋がるよう考案されたイベントで、2003年から毎年、東京で開催されています。2008では、60以上の団体が参加しました。



○参加団体紹介

EARTH☆FROGS(沖縄)

『学生の力で社会をカエル』ということを活動コンセプトに、地域密着型の活動をする環境団体です。地域のお祭りなどに参加し、「マイ箸」「マイバッグ」推進運動や、家庭で出る廃棄油の回収を行い石鹸に加工し、地域住民の方に配るという活動をしています。

環境同好会エコの民(東京)

『学内の環境意識の向上』を目的とし活動している団体です。主活動内容として、武蔵野大学内の生協に『エコふくろう』というエコバッグを提供。学内に回収BOXを設置し、レジ袋削減への取り組みをしています。その他にも、大学祭でのゴミ分別活動や、エコキャップ活動など、様々なエコ活動を展開しています。

○エココンからの発展

全国学生ゴミゼロ運動

エココン2008で出会った、『GreenCommunication』という神奈川の学生団体を中心に、同じ日に全国の学生でゴミ拾いをしよう、という企画です。エココン2008で行われた『エコパ』という交流会の中で話が盛り上がり、5月30日(ゴミゼロの日)にやろうということで企画が進行中です。

今後は、実際の実現に向け、参加学生の募集や、方法などについて、小まめに連絡を取りながら準備をしていきます。



(財) 日本木材総合情報センター

(財) 日本木材総合情報センター／木づかい運動
「地球温暖化防止のためにも国産材を利用しよう」

中澤 健一 氏

(木づかい運動ステアリングコミッティ委員、
国際環境NGO FoE Japan 職員)

◆世界の森林は今・・・

残された原生林は、8000 年前の2割にも満たない！

世界の森林喪失は年 1300 万 ha

(増加分との差引でも年間 730 万 ha の純減少)

熱帯地域の減少が顕著



・森林は巨大な炭素倉庫

陸上 (植物・土壌) に蓄積の炭素量は 7.3 兆
トン CO₂

残存する石油資源よりも多く大気圏にある
炭素量の 2.7 倍

◆なぜ止まらない？ 森林減少

森林破壊の要因

貧しい住民による不法入植、焼畑、伐採？ ⇔ 原生林を切り開き、奥地へ進入していくには 大きな資本力が必要

・森林喪失のメカニズム

直接的要因

- 途上国での海外資本・援助によるインフラ開発 (資源目的)
 - 道路インフラを通じた伐採の奥地化・入植が進む
 - 途上国の負債と腐敗
 - (途上国債務合計 2 兆ドル)
 - 負債返済のためのリストラで、森林資源の商品化を推進
 - 腐敗した行政機関による 不公平・不透明な森林利用権の配分 (大手資本優先)
 - 大規模な伐採、海外市場へ大量輸出
 - 締め出される地元住民と貧困悪化

増大し続ける土地需要や木材・紙に加え、食糧・バイオ燃料への国際需要が拡大



◆違法伐採と国際貿易

海外市場からの需要

G8 諸国の違法伐採木材の輸入と主な生産国の違法伐採の推定割合 (2004 年推定)



日本の港に輸入されたウリン材
(インドネシアで伐採は厳しく制限)



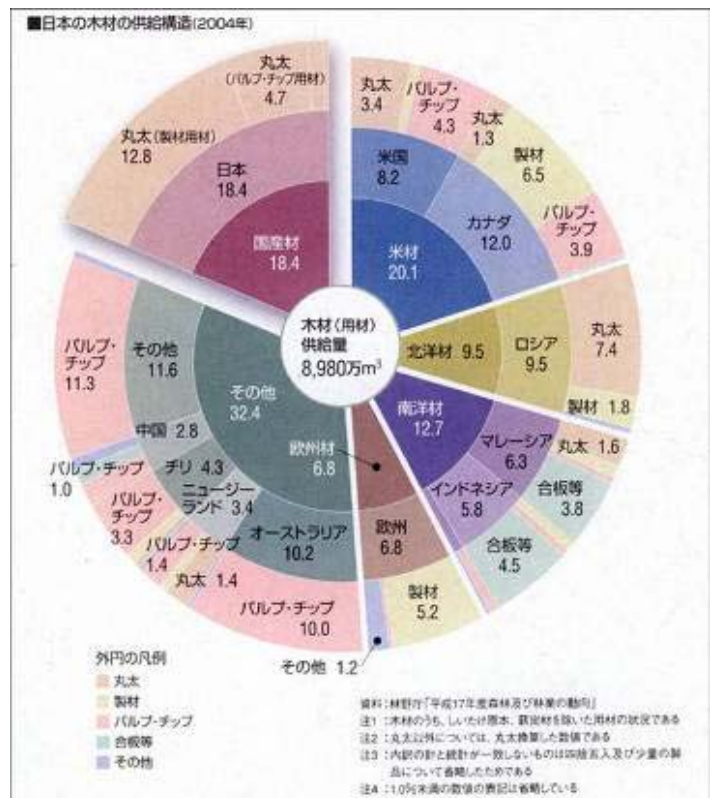
ウッドデッキとして人気の木材



・日本の木材市場

紙が4割、残りは建築・土木、家具など
太平洋周辺国からの輸入が 2/3 を占める

- 米国、カナダ
- ロシア、
- マレーシア、インドネシア
- 豪州、NZ
- チリ
- 中国



◆フェアウッド・コンシューマーになろう！

0.余計なものは買わない。「リデュース」「リペア」

1.中古品、廃材、古紙を選ぶ「リユース」「リサイクル」

2.出所の不明なものは買わない

3.近くのものを選ぶ「地産地消」「地球温暖化防止」

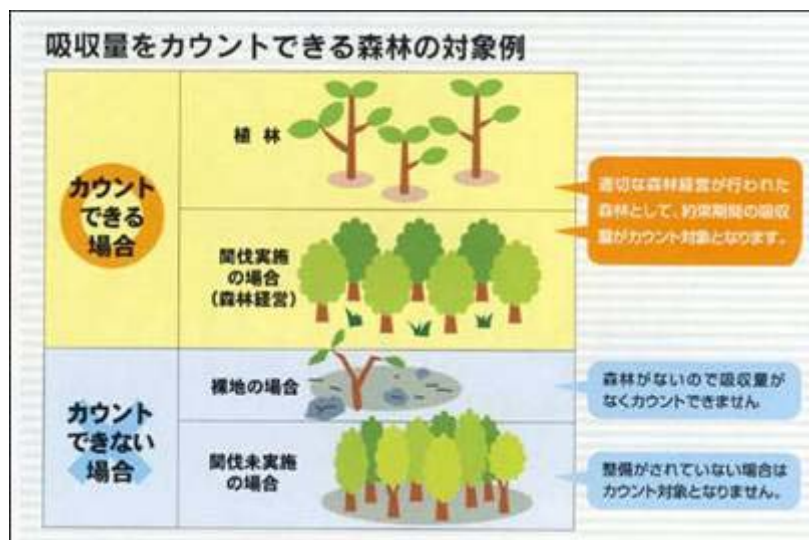
京都議定書での我が国の約束（CO₂削減 3.8%分は森林吸収で行う）

・3.8%を確保するための仕組み

森林の手入れが大切植林や手入れが1990年以降に行われた森林の吸収量が3.8%にカウント

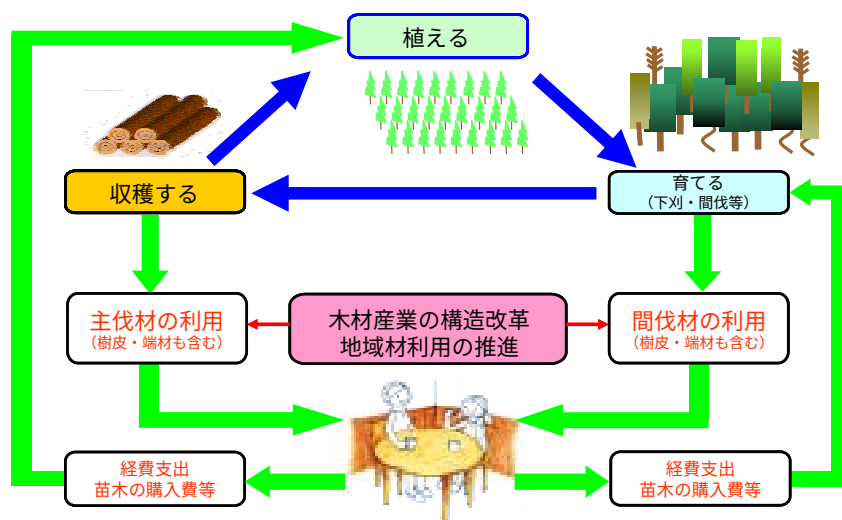
日本では植栽して新たに森林に
することができる土地はわずか。

間伐の実施等による「森林経営」
によって吸収量を確保する必要がある。



国産材利用と森林整備

植える・育てる・収穫する・上手に使う

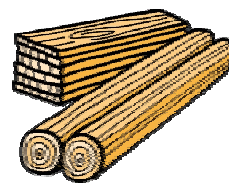


木材利用の効果①

CO₂を炭素の形で固定



一般家庭の年平均
CO₂排出量 **3.4 t**



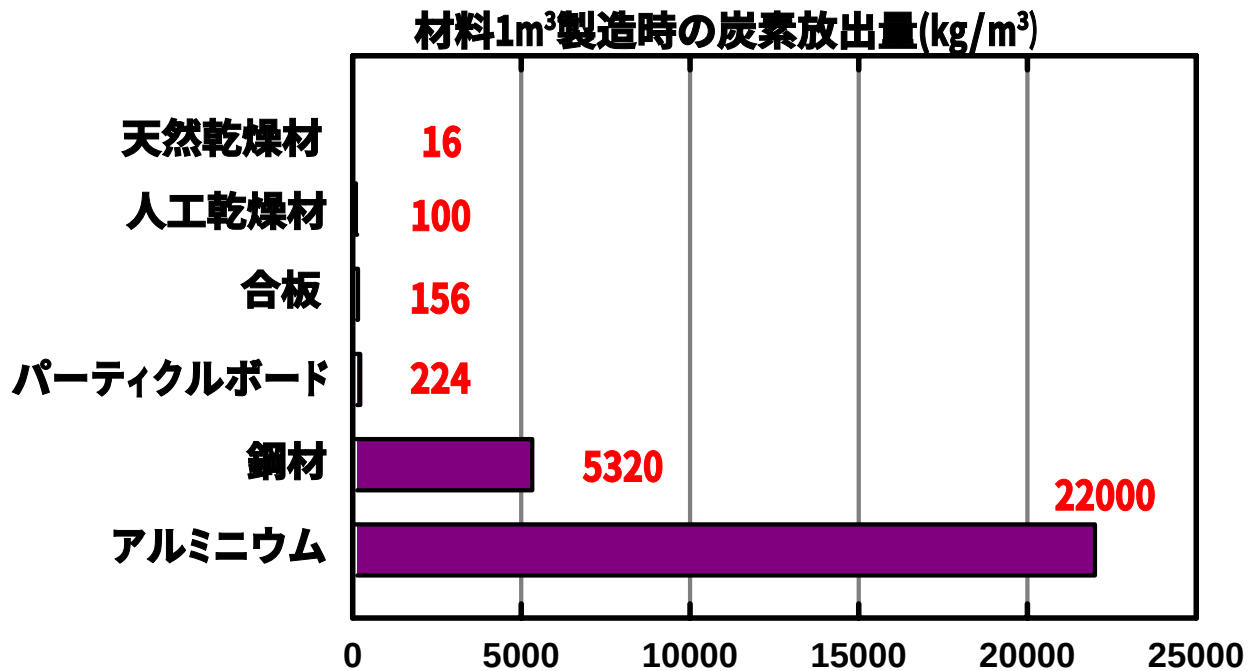
スギ材1m³ 0.4t
炭素固定量 0.2t
CO₂換算 0.7t

スギ材 **5m³** に相当

木材利用の効果②

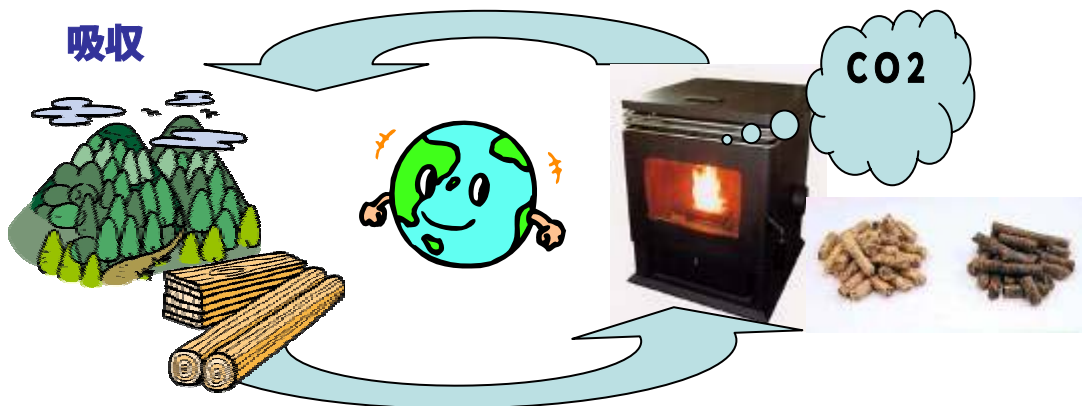
製造エネルギーの削減

木材を使えば CO2 排出量が減る



木材利用の効果③

エネルギー利用すれば化石燃料の消費削減

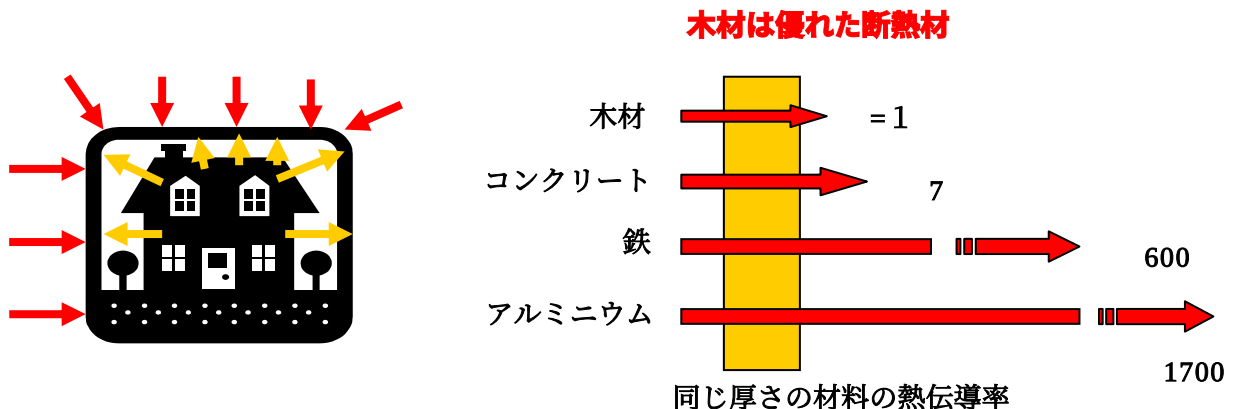


新エネルギーとして今後の利用拡大が期待

木材利用の効果④

家屋に使えば省エネ

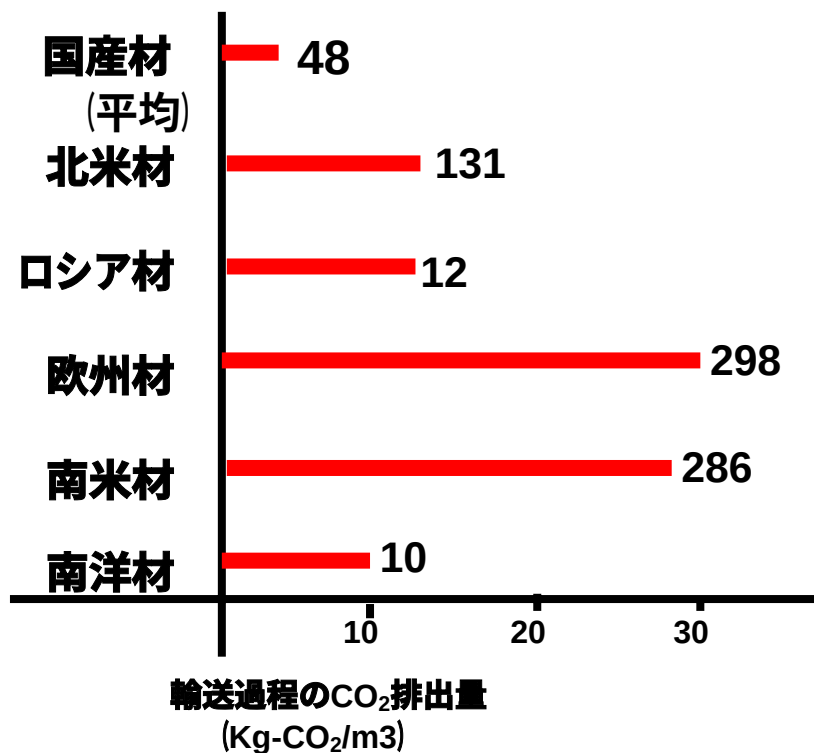
木材を使えば熱エネルギーが節約できる



木材利用の効果⑤

その他の効果

国産材利用は CO₂ を減らす



出展: ウッドマイルズ研究会

国産材利用によるその他の効果

森林の公益的機能の向上

- ・水資源の貯留と浄化
- ・土壌浸食や土砂崩壊の防止
- ・多様な生物の生息環境
- ・保健・レクリエーションの場

地域社会の発展

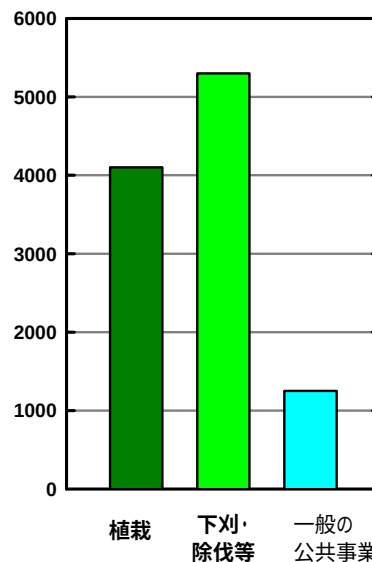
国産材の利用により

- ・地域の林業生産、製材・加工等の木材産業への貢献
- ・地域の雇用の場の確保



山村を担う社会・経済の維持

事業費1億円で雇用できる労働者数 (人／日)



◇「木づかい運動」に参加しよう

洞爺湖サミットでも国産材製品が利用

国際メディアセンターの外壁や内装に利用



間伐材割り箸を10万膳使用



カートカン飲料の利用



- ・ビジネスやオフィスでできる「木づかい」
国産材を利用していると見なせる紙
環境紙・印刷用紙



日本の森が抱える問題を・・・



ユーザー支援により解決へ・・・

- ・家庭でできる「木づかい」
割り箸



プランター



木造住宅



・地域でできる「木づかい」

木製遊具



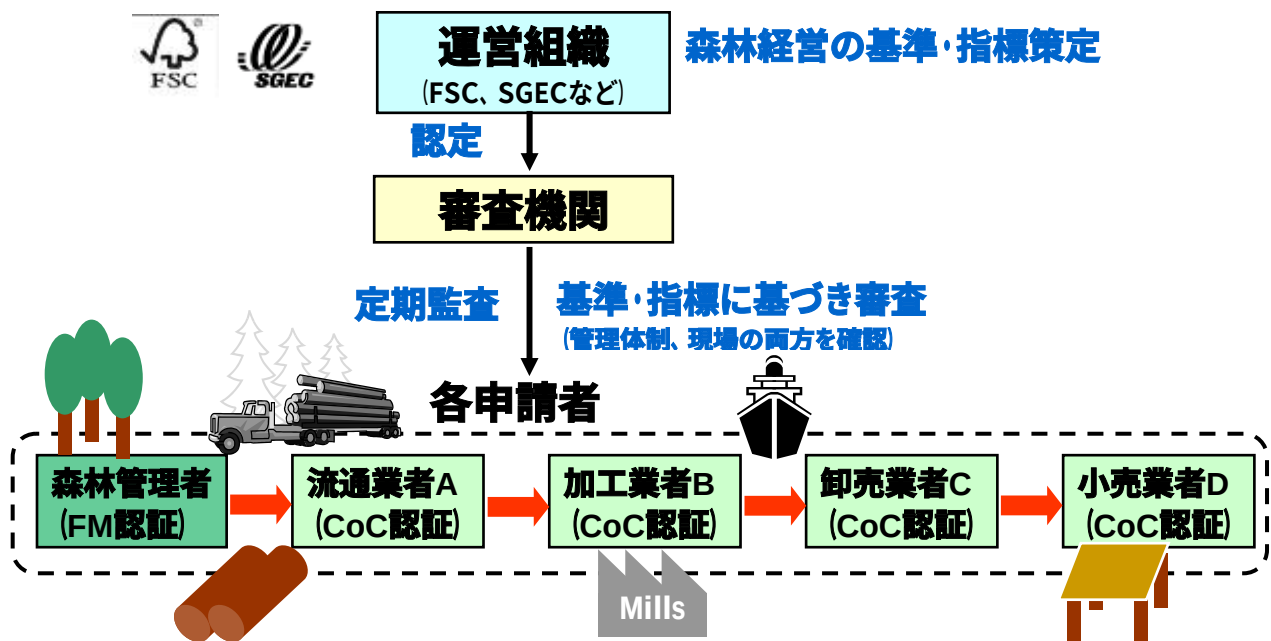
木製ガードレール



木の歩道



4. 認証マークのある製品を選ぶ
森林認証制度とは？



FSC 森林認証の 10 原則

- 原則 1: 法律とFSCの原則の遵守
- 原則 2: 保有権、使用権および責務
- 原則 3: 先住民の権利
- 原則 4: 地域社会との関係と労働者の権利
- 原則 5: 森林のもたらす便益
- 原則 6: 環境への影響
- 原則 7: 管理計画
- 原則 8: モニタリングと評価
- 原則 9: 保護価値の高い森林の保存
- 原則 10: 植林における配慮



5. 会社の方針を見て選ぶ

木材調達方針の策定

社内外に対して基本的な方向性を明示

「こんな木材は買わないようにします」

- ・絶滅危惧種
- ・違法に生産・取引された木材
- ・生態系に悪影響を与えている木材
- ・先住民や地域社会、労働者の権利が生活環境に悪影響を与えている木材

「こんな木材を買っていきます」

- ・信頼のある森林認証を受けた木材（または同等の証明のある木材）
- ・建築廃材、リサイクル材
- ・輸送負荷の少ない木材



仕入先や顧客へ周知、社内の教育、体制の整備

調達方針の意義

- ・自らに対する約束
従業員を含めて問題意識を共有し、忘れないようにする
- ・顧客・消費者に対する信頼と安心の提供
透明性を高め、説明責任を果たす
- ・サプライヤーへの対応要求
どのレベルまで求められているか明確になる



連絡先：(財) 日本木材総合情報センター

TEL 03-3816-5595 FAX 03-3816-5062

URL <http://www.jawic.or.jp>

国際環境 NGO FoE Japan

TEL 03-6907-7217 FAX 03-6907-7219

URL <http://www.foejapan.org>

物林 株式会社

「グリーン購入と木材」

北海道建設資材部 景観デザイン室

近藤 健彦 氏

◆物林(株)

木材流通業

国内外の木材/木製品の販売

木材の加工販売

(北海道プレカットセンター、オホーツクウッドピア他)

景観資材販売

屋上緑化資材、雨水貯留槽、造園資材、緑化樹木の販売

緑化資材の販売(芝生保護材、樹木地下支柱など)



安心して使える木材

○ 森林認証

- SGEC=日本の認証
- PEFC=ヨーロッパ発世界認証
- SFI=アメリカ・カナダ
- CSA=カナダ
- FSC=世界認証 WWF

どの認証も循環資源が条件

◆当社の取組(北海道)

○ 森林認証材の取扱い

ニュージーランドの場合(FSC 認証)

森林は現地企業のより安定した経営計画の下に、1/2haの区画(70m×70m)がGPSによって区分され、基盤図上に抽出されている。

ひとつの区画を囲んでいる全地域は自然林の状態で維持されなければならない、その地域は世代が4mの高さになるくらいまでの間は再び立ち入ることが出来ない。立ち入りの難しい地域や環境的に影響を受けやすい地域では、伝統的な土地に基づいた抽出方法がヘリコプターによる情報収集の選択も含めて行われている。また、丸太は先進のコンピューター技術を用いて等級ごとに分類、計測される。



- 地域循環の取り組み～足寄町役場
- 地域循環+認証材の取り組み～美幌町

町有林カラマツ材を使用した新庁舎

1

町有林 カラマツの調査・伐採

足寄町町有林の樹齢42年から53年生の約9,000本のカラマツを使用。

足寄町 カラマツ林の調査



カラマツ材の伐採



2

素材生産となるカラマツ材

足寄町町有林78.2ヘクタールを伐採し躯体部分の材料に使用。

伐採したカラマツ材の運搬



積み上げられたカラマツ材



3

ラミナ材へ

カラマツ材を地元製材工場でラミナに製材。(450m)

足寄町森林組合
有限会社青山製材工場
玉川木材工業株式会社

カラマツ材をラミナに製材



ラミナの運搬



4

集成材へ

ラミナからカラマツの大断面構造用集成材を製造。(303m)

協同組合オホーツクウッドピア

集成材の製造（精留後）

集成材の製造（精留区分）



5

構造用集成材を孔穴加工

大断面構造用集成材はあらかじめ加工工場で高精度の孔穴加工を行い、その後現場へ搬入。

協同組合オホーツクウッドピア

構造用集成材の孔穴加工



構造用集成材の検査





工場内で集成材に加工



現場施工（足寄町庁舎）





完成足寄町庁舎



- ロングライフ～雨煙別小学校
約 80 年前 (1936 年当時)



D114 《昭和11年 雨煙別小学校》



2008 年校舍内

改修リニューアル後



- 他の材料からの置換え～農産台
里山の雑木材使用(ストアなどで使用される農産台)



- 気遣い＝木づかい＝グリーン購入の基本的考え方
 - ・樹木は炭素を固定し、酸素を生産するエコマテリアル
 - ・考えて使おう (必要性)
 - ・選んで使おう (認証材)
 - ・どんどん使おう (置換え)
 - ・大事に使おう (使い方、作り方)

連絡先: 物林株式会社

TEL 011-271-1196 FAX 011-271-3030

URL <http://www.mbr.co.jp/index.html>

■次回開催

北海道GPNエコカレッジカフェ第6回

4月21日(火) 18:30～

◇発表予定者

- ・コクヨ北海道販売(株)
- ・(株)エコノス
- ・学生団体

会場:アースカフェ・インザループ(札幌市北区北14条西3丁目ル・ソレイユ1階)



◆事例発表者、参加者大募集！！

(エコ・カレッジ通信、開催当日の様子はウェブサイトからご覧いただけます)
詳しくはこちらまで↓

作成:北海道 GPN 事務局(担当 大内)

〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西14丁目2-3

連絡先:TEL 011-222-0234 FAX 011-222-0235

E-mail : staff@hokkaido-gpn.org

URL : <http://www.hokkaido-gpn.org/>